



DREAMING

Heart of the Dreaming 私たちは「心温かい信頼の医療」を目指しています。

DREAMING INTERVIEW



ドリーミングインタビュー

プロフィール

整形外科医長 **吉村 ひろし** 先生

出身：生まれは東京都、育ったのは茨城県つくば市
趣味：からだを動かすこと
略歴：水戸医療センター、仙台市立病院、
仙台西多賀病院、東北大学病院



先生が医師を目指された理由を教えてください

育った茨城県のつくば市では、友人のお父さんが研究をやっていたり、科学に携わっている人が多い地域でした。小さな頃から、自分のやる仕事が生世の中に役に立っているのか分かりやすい仕事の方が良いと漠然と感じていて、科学の中でも、「医療」はどんな人の生活にも関わっていて、子供心に分かりやすいというところが、医師という仕事に魅力を感じた理由の一つかと思います。

あとは、ルールや文化は、国とか地域によって変わってくると思いますが、病気や怪我によ

る苦しみや痛みは、立ち向かう相手としてはシンプルで分かりやすかったことや、時代や国、地域で身体の構造が変わるわけではない普遍性もあって、医師になろうと思いました。

子供の頃は、昆虫や生き物が好きで、そういった研究者になりたいと思ったこともありましたが、高校生の初めくらいで医学部に進みたいと思いました。



診療の際に心がけていることを教えてください

患者さんは、それぞれ痛みや嫌なことを抱えて診察室に来ると思いますが、痛みや怪我の箇所を見るのはもちろん、表情をみるように意識



しています。また、痛みによって、何ができなくなって、何が困っているのかを考えて患者さんと話すようにしています。病気や怪我の状態だけではなく、仕事や家庭などの周辺状況まで考慮して、診察しています。

患者さんは話を聞いてもらおうとスッキリする部分もあると思うので、診察室を出ていくまでの間で、少しでも精神的に元気になった状態で帰ってもらいたいと思っています。

自分自身もヘルニアで苦しんだこともあったので、「もし自分だったら、こうしてもらったら嬉しいだろう」というところをイメージしながら進めています。

これまで、山形に住んだことは無いので、方言に苦労することもあります。患者さんと一緒に来院される家族の方や周りのスタッフに支えられて、しっかりコミュニケーションを取れるように努めています。出身地の茨城県の患者さんと比べて、こちらの患者さんは優しいですね（笑）

医師として印象に残った出来事を教えてください

医師になって3年目か4年目くらいに担当させていただいた患者さんで、手術後にリハビリ目的で退院になった患者さんですが、事前の話合いが大事だと感じた症例がありました。

当時は、研修医という立場だったので、先輩である先生の方針に従って決めたところもありますが、自分の中でのプロセスのかみ砕きが足

りなかったと反省して、患者さんも自分自身も納得したうえで進めるべきだと感じました。

患者さんによっては、「先生に任せます」と仰られる方もいますが、今の体の状態などを把握してほしいし、治療方法についても納得したうえで受けていただきたいと思います。

先生のリフレッシュ方法を教えてください

ドライブです。山形市内や仙台まで、車を運転しています。それで、美味しいものを食べたり、買い物したりして休日を過ごしています。

走ることもリフレッシュになっています。これまで、フルマラソンも2回完走しています。最後に走ったのは、3年前くらいです。

家でじっとしていることは苦手です。

日課や体調管理の方法、毎日のルーティンがあれば教えてください

山形に来てから、湯船に浸かるようになりました。

疲れた時などに湯船に浸かると、ゆっくり寝れるような気がしています。

今住んでいるところのお風呂は、沸くスピードが速くて助かっています。

メッセージ

分からないことがあったら、遠慮なく聞いてほしいです。

我々医療者だけが治すのではなくて、患者さんにも考えていただいて一緒に治療していければと思っています。



フレッシュ・ボイス Fresh Voice

病院にやってきたフレッシュさんのフレッシュな声を伝えるコーナーです。



薬剤師
なかざわ いくみ
中澤 郁美

《実際に働いての感想は？》

入職して間もない頃、薬剤部の先輩が「分からないことがあったら、何でも何回でも聞いてね。」と、言ってもらえたことが緊張していた私にとって、とても嬉しかったです。患者さんのみならず、このような声掛けができる薬剤師がいるこの病院に入職することができて良かったと思いました。

患者さんとの関わりでは、外来窓口で服薬指導中に、質問をくださった患者さんが私の返答に納得して薬を受け取ってもらえた時に、自分でも患者さんのために力になることが出来たと実感し嬉しく思います。

《これからこんな薬剤師になりたい》

患者さん自身に興味を持ち、検査結果や身体の状態・心情や環境などの情報から最適な服薬指導を試行錯誤し続けられる薬剤師になりたいです。

ご自分の体に対して十分な情報を得ている患者さんばかりではないと思いますので、服薬指導の中で、自分について知り、共に服薬管理に前向きになってもらえることが一番理想です。外来患者さんのことを一瞬ですべて理解することは難しいですが、必要な情報を端的に渡し、「何でも聞いてください。」という安心感を伝えられるような説明ができるように頑張ります。

《実際に働いての感想は？》

多職種の方々との垣根が低く、コミュニケーションがとりやすい環境だと思います。私自身は他職種の方と関わる機会がまだ少ないので、廊下ですれ違った際に挨拶を交わすことでささやかな繋がりを感じています。

外来での窓口業務では、以前私が薬をお渡しした患者さんに、名前を覚えてもらっていたことが心に残っています。覚えてもらっていたきっかけは薬に関係ない話題でしたが、薬剤部の先輩方のような「顔の見える薬剤師」に一步近づけたような気がしました。

《これからこんな薬剤師になりたい》

患者さんの服薬アドヒアランス改善のために、服薬指導やその他薬剤師業務を通して積極的に介入していけるような薬剤師になりたいです。そのためにも、薬に関する知識・理解を深めていけるよう研鑽を積み薬剤師として成長していきたいと思っています。

現在は業務を身につけることで精一杯の日々ですが、患者さんの生活や気持ちに寄り添うことを意識して今後も業務に取り組んでいきます。



薬剤師
へんみ かえで
逸見 楓

資格紹介

糖尿病患者を支える認定資格 「糖尿病療養指導士」について

皆さん、「生活習慣病」という言葉を耳にした事がありますか？

生活習慣病は、かつては「成人病」と呼ばれ、加齢が原因と考えられてきましたが、近年は、不適切な食習慣や運動不足、過度な飲酒、喫煙、不規則な生活など、幼少時代からこれまでの生活習慣が原因となることが分かってきました。そのため、最近では「成人病」ではなく、「生活習慣病」と呼ばれるようになりました。

生活習慣病と言われる病気には、糖尿病、肥満、脂質異常症（高脂血症）、高血圧症、心筋梗塞、脳卒中、肺がん、慢性気管支炎、大腸がん、肝硬変、脂肪肝があります。現在の日本において、生活習慣病の予防は国の課題の一つで、特定保健指導が義務化されるなど、国をあげて生活習慣病を予防する方針が打ち出されています。

その中でも、糖尿病は疑いのある方も含めると約2000万人程度いると考えられています。糖尿病には糖尿病性神経障害、糖尿病性網膜症、糖尿病性腎症という恐ろしい三大合併症があり、その予防と治療は大変重要視されています。糖尿病の治療には、薬物療法、インスリン療法などがありますが、食事や運動、禁煙、飲酒などに関する生活指導がとても重要であり、その指導のサポートを担うのが「糖尿病療養指導士」です。

糖尿病療養指導士は、糖尿病とその療養指導全般に関する正しい知識と技術を持ち、医師の指示のもとで患者さんお一人おひとりに適切な療養指導のサポートを行う生活指導のエキスパートです。

糖尿病療養指導士は日本糖尿病学会、日本糖尿病教育・看護学会、日本病態栄養学会が母体となって設立した日本糖尿病療養指導士認定機構が認定する日本糖尿病療養指導士（CDEJ）と、各地域で設立・運営されている機構が認定する地域糖尿病療養指導士（CDEL）があります。日本糖尿病療養指導士（CDEJ）は糖尿病患者の療養指導に従事する医療スタッフの5職種（看護師、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士）に与えられた資格であり、認定機構が行う講習会への参加、認定資格試験を受け、合格すると認定証の交付がなされます。地域糖尿病療養指導士（CDEL）は地域の組織ですが、同じように講習会や資格試験があります。職種は日本糖尿病療養指導士（CDEJ）の5職種に限定されず、地域の必要性に応じて職種が広く認定されています。

当院には、山形県糖尿病療養指導士（CDE-Yamagata）の資格を有するスタッフと日本糖尿病療養指導士（CDEJ）の資格を有するスタッフがおり、糖尿病内科の岡村医師とともに外来や病棟にて生活指導を行っております。岡村医師の指導のもと、日々最新の知識を習得し、糖尿病で通院されている患者さんの治療や生活をサポートできるよう努めております。

文責：副看護師長 工藤朋子



この連載では、地域医療連携でお世話になっている施設が、どんな医療を展開しておられるのか、お話を伺っています。



プロフィール

☆院長 おくやま 奥山 しんいちろう 慎一郎 先生

☆診療科目 【内科・外科・精神科・皮膚科・緩和ケア】

☆いつ開業 令和元年10月

☆スタッフ 医師9名(うち非常勤3名)、看護師2名、社会福祉士・ソーシャルワーカー3名、理学療法士・言語聴覚士2名、管理栄養士1名、医療事務4名、診療アシスタント6名、総務1名

◆受付時間◆

	月	火	水	木	金	土	日・ 祝祭日
9:00~12:00	○	○	○	○	○	○ (※)	×
14:00~18:00	○	○	○	○	○	×	×

※土曜日は13:00まで

〈緊急連絡対応しています。休日・夜間についてはご相談ください。〉

〒990-0051 山形市銅町2丁目13-11
Tel.023-616-6360



当院は令和元年10月山形市銅町に開業いたしました『医師や看護師らが自宅に伺い診察や治療・ケアをおこなう訪問診療』を専門にしているクリニックです。病気や障がいを抱えていても、ご自宅や住み慣れた施設で過ごしたいと希望される方々を医師が24時間365日体制で支援しています。

『訪問診療クリニックやまがた』には、内科や外科、精神科、皮膚科、緩和ケアなど様々な専門分野で活躍してきた医師が所属しており、それぞれの知識や経験をもとに医師やスタッフが診療方針を共有し在宅での診療に臨んでいます。また、医師だけではなく看護師や理学療法士、医療ソーシャルワーカー、管理栄養士など様々な専門職種が在籍しており、多職種が意見を交換しながら患者様やご家族様の生活を支援しているのが特徴です。

対象としている疾患は、がんや神経難病(人工呼吸器を利用されている患者様も対応しています)、慢性心不全、呼吸不全などこれまで自宅で最期まで経過していくことが難しいと思われていた病気の方や、認知症の方、高齢独居のために通院が困難となっている方など多様に診療しています。

居宅介護支援事業所『ゆうじん』が令和4年10月より併設され、介護保険を利用したサービスにも当院のケアマネージャーが迅速に対応いたします。さらに、医療や福祉制度に精通したソーシャルワーカーが3名所属しており、患者様やご家族様からの訪問診療や制度の利用に関する相談、病院やケアマネージャーなど地域からの相談にもいつでも対応できるようにしています。

東北中央病院からは退院後に在宅療養される患者様をご紹介いただく機会も多く、また、在宅や施設で体調が変化した際には患者様の受け入れに関してもいつも迅速に対応いただいております。今後も地域医療に貢献していけるように活動してまいりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

病院NOW!

病院のいちばんHOTな
情報をお届けします

在宅療養
後方支援病院

「在宅療養後方支援病院」として、事前にかかりつけ医(在宅医療機関)を通して申請していただいた在宅療養されている患者様について、かかりつけ医が緊急入院の必要があると判断した場合、当院で24時間診察を行っております。

入院が必要となった場合、原則当院で入院治療を行いますが、やむを得ず入院治療が行えない場合は、当院が適切な医療機関をご紹介します。

ご希望の場合は、通院されているかかりつけ医にご相談のうえ、事前登録をお願いいたします。

なお、在宅療養をされている方が対象となりますので、社会的入院希望の方は登録できません。

地域の方々へ貢献できるよう、安心・安全な医療提供体制を整えてまいりますので、よろしくお願いいたします。

お問い合わせ先：地域医療連携室
TEL 0120-703-995

人間ドック通信

今回は、よくあるご質問にお答えします。また、期間限定で受付を行っている宿泊ドックについてもご案内させていただきます。

Q1. 宿泊人間ドックを受けたいのですが、どのように申し込んだらいいですか？

A1. 宿泊人間ドックは完全予約制です。直接、病院の窓口でご相談いただくか、お電話にて予約申し込みをお願いいたします。（担当 医事課健康管理係）
当院では、期間限定の宿泊ドックを実施しています。ぜひ、この機会にご利用ください。日帰りドック、脳ドックも実施していますのでご相談ください。

宿泊ドック（期間限定 特別割引） 期間：2023年6月30日まで

人間ドックコース及び料金

2泊

Aコース
(標準コース)

料金(税込)
男性 56,000円
女性 53,000円

Bコース
(標準コース+
全大腸内視鏡検査付)

料金(税込)
男性 72,000円
女性 69,000円

Cコース
(標準コース+
脳ドック付)

料金(税込)
男性 84,000円
女性 81,000円

1泊

Eコース
(標準コース)

料金(税込)
男性 55,000円
女性 52,000円

Hコース
(標準コース+
脳ドック付)

料金(税込)
男性 81,000円
女性 78,000円

Q2. 人間ドックに健康保険は使えますか？

A2. 人間ドックは病気に対する治療が目的ではなく、病気の早期発見、予防を目的としていますので健康保険は適用できません。健康保険組合等によっては、人間ドック費用の補助制度を実施している場合がありますので加入する健康保険組合にお問合せください。

編集
後記

うさぎ年は、「飛躍」の年と言われているそうです。

前回のうさぎ年では、「なでしこジャパン」がサッカーW杯で優勝し、女子サッカー界が大きく飛躍したのではないのでしょうか？

今年は、何が飛躍するのか、誰が飛躍するのか、どのような年になるのか楽しみです。(T.K)

公立学校共済組合 東北中央病院

〒990-8510 山形市和合町 3-2-5
TEL 023-623-5111 FAX 023-622-1494
<https://tohoku-ctr-hsp.com>
E-mail: jimu@tohoku-ctr-hsp.com

■発行責任者／田中靖久 ■編集／広報委員会

東北中央病院
ホームページへ
GO!

ご利用の携帯端末によっては、アクセスできない場合があります。

